

## みなとみらい21 エリアマネジメント活動助成事業 10年に寄せて

「エリアマネジメント活動助成」とは、まだ馴染みの薄い用語ではないだろうか？ 横浜みなとみらい21地区では、それまでのまちづくりを担う組織であったまちづくり株式会社が一般社団法人に改組になった2009年を契機にスタートした事業であるが、日本全国にはまだそれほど普及はしていない。

横浜みなとみらい21地区でこの助成事業を提案したのは、横浜市から一般社団法人に出向していた故肥山達也君である。彼は、横浜市において「ヨコハマ市民まち普請事業」を提案し、すでに軌道に乗っていたその経験をみなとみらい21地区にも生かそうと考えた。私は「ヨコハマ市民まち普請事業」をお手伝いした縁で、再度肥山君から依頼されて「横浜みなとみらい21 エリアマネジメント活動助成」もお手伝いすることになった。

さて、限定された地域で、地域の企業が出資する会費で、地域の賑わいとコミュニティを活性化しようとするこの助成事業は、それまでの行政の税金をベースにした市民活動助成と似てはいるが、根本的に異なる。その違いは、公共性あるいは公益性に関するものである。行政は、基本的に市域全体の公平性や平等性を前提に判断するが、みなとみらい21の活動助成は、より狭い範囲の「地域的公共性」、あるいは限られた市民による「市民的公共性」をむしろ重要と考えている。行政だけが担う「古い公共」ではなく、資金は民間、活動は市民という「民間と市民が担うニューパブリック」の登場ということができる。

本事業は、10年間で延べ99団体に総額約3,070万円の助成をしてきた。平均すると1団体約31万円である。今では誰もが知っている横濱キャンドルカフェや横浜サンタプロジェクト等の有名なイベントから、あまり知られていない、夢ワカメ・ワークショップやみなとみらいごはん部、チョークアート等のユニークなプロジェクトまで、活動の幅は極めて広い。また、延べ99団体のうち、団体の所在地がみなとみらい21地区内にあるのはわずか38団体(38.4%)、横浜市内に広げると87団体(87.9%)、横浜市以外も12団体(12.1%)と、様々な活動団体をみなとみらい21地区に引き寄せる求心力をこの仕組みは有している。このような形で多種多様な事業に助成してきたことは、世界を見ても珍しいのではないかと思う。今後は、公益信託みなとみらい21まちづくりトラストにより助成金の枠も大きく広がり、また活動の条件も緩やかになったので、ますますの発展を期待したい。

みなとみらい21 エリアマネジメント活動助成事業選考委員会  
委員長 卯月 盛夫

## 選考委員コメント

選考委員一覧は資料編参照  
( )内は選考委員を務めた年度

### 川崎 利雄 氏 (H21 年度・事業創設時)

2009 年当時、私が在職した一般社団法人横浜みなとみらい 21 では、株式会社から社団法人への転換に際し、エリアマネジメントのあり方を熱心に議論し、各地の実例にも学んでいました。こうして完成した新たな事業計画には、数多くの取組がありましたが、これまでに培った地域企業・団体の皆さんとの信頼こそが大きな基盤となっていました。エリマネ活動助成事業も、街を活性化する取組を会員全体で推進する画期的な試みであり、事務局として企画段階から腐心していた同僚の姿を思い返すと感慨深いものがあります。時は経ちましたが、今後とも MM21 地区の街づくりが、全国の範となり益々発展することを心からお祈りいたします。

### 清水 あつ子 氏 (H22 年度 1 次～H30 年度)

申請された活動をされている方々、分野が多岐にわたっておられることに驚きました。高校生、大学生、企業人、退職者、主婦がそれぞれの立場でみなとみらい地域の活性化あるいは地域の課題解決のために行動を起こしていることは、これからの社会を動かしていく力だと感じました。また審査後の交流の場を通じて団体同士の繋がりが生まれ、それぞれの得意分野を生かした活動の輪が広がり、新たな価値が生まれたことが一つの成果であったと感じています。

### 斉藤 良展 氏 (H24 年度 2 次～H29 年度)

平成 24 年度から 5 年間、(一社)横浜みなとみらい 21 の専務の立場で、助成事業の審査に携わりました。本来なら応募いただいた団体すべてに助成したいのですが、限られた予算の中でしたので、審査をしなければならないのは心苦しいところでした。一方、活動団体同士で協力し合ったり、または企業の支援を受けるなどでさらに活動の輪が広まる事例などがあり、審査員としてやりがいもありました。

### 朝比奈 ゆり 氏 (H25 年度 1 次～H30 年度)

この事業は数々のユニークな活動を生み出してきましたが、その原動力は参加者の顔ぶれの豊かさにあります。

住民や学校に通う人、働く人、加えて買物客やイベント参加者まで、世代はこどもからシニアまで、実に様々な人が事業に応募し活動を実現しました。このまちが好きならば、誰でもまちづくりに参加できることを実践してみせたのです。それはとても素敵なことです。今後も今以上に誰にでもひらかれたまちであって欲しいと思います。ありがとうございました。

### 青木 晋 氏 (H28 年度・H29 年度)

私が参加したのは平成 28 年度から 29 年度途中の短い間。応募団体の真剣な提案と、それに応えようと熱い議論を繰り広げた選考委員のみなさん。私は、圧倒されてばかりで、積極的な発言もできず悔しい思いをしたのを覚えています。

選ばれた団体も、ポニーと触れ合ったり、広島の花火流しを再現したり、ご飯作りでオフィスワーカーと住民、老若が交流したり…。「都心部のみなとみらい地区でこんなことができるんだ」と驚かされ、たくさんの刺激をいただきました。ありがとうございました。

藤田 格 (H30 年度)

エリアマネジメント活動助成事業がこの街で活動する人、企業、団体が自ら街づくりに取り組む機運を高めるとともに、単に個々の活動を行うだけではなく、それぞれが連携して、新しい活動を生み出すという好循環も生みながら展開できたことは、応募していただいた皆様のご理解と熱心な活動の賜物だと思います。

当地区の街づくりは建設のステージから、この街で活動する人々が街の魅力を高め、賑わいを創造するステージへと転換する節目を迎え、エリアマネジメント活動の重要性は高まっています。

これからも、皆様とともに魅力ある街を育てていきたいと思えます。



平成 30 年度公開選考会の様子